

## 第1回志布志市松山地域の学校の在り方検討委員会 会議の概要

- 1 開催日時 令和6年10月29日(火)  
開会 午後7時00分 閉会 午後8時10分
- 2 場 所 やっちくふれあいセンター
- 3 出席者 委員27名(1名Web参加)
- 4 欠席者 委員 2名(1名代理)
- 5 出席した職員等 教 育 長 福田 裕生  
教育総務課長 児玉 雅史  
総務施設GL 橋本 淳二  
総務施設GSL 児玉 憲一  
総務施設G 竹井 尚紀

※ 公開用議事録は、一部修正してあります。

◇ 会議の要旨

1 開 会 (午後 7 時00分)

2 辞令交付

3 教育長挨拶

4 出席者紹介

5 委員長及び副委員長の選任

委員長に飛松正文委員、副委員長に川上渉委員を選任

6 これまでの経緯及び本検討委員会の趣旨について (午後 7 時17分)

<事務局説明>

7 議事 (午後 7 時25分)

<委員長挨拶>

(1) 検討委員会としての基本的な考え方及び今後の進め方等について

<事務局説明>

委員 A

アンケートを行うとあったが、その内容はどのようなものとなるか。

事務局

この議事(1)でアンケート実施の方針となったら、議事(2)の中で、内容のたたき台を作成しているので、御検討いただくこととしたい。

委員長

検討委員会としての基本的な考え方及び今後の進め方等については、今後のアンケート実施を含め、原案のとおりでよろしいか。

<委員了承>

(2) 保護者アンケートの実施について

<事務局説明>

委員 B

アンケートはウェブのみか。

事務局

前回アンケートした際にウェブのみで実施したが、回答できないという意見はなかったので、スマホで回答できる環境にあると考えている。また、学校の安心

安全メールでの催促をした場合は、リンク先を付けてメールを送信するようにしたい。

#### **委員B**

前回アンケートの回答率はどのくらいであったか。

#### **事務局**

回答率は全体で57.3%。松山小が53.8%、泰野小が85.3%、尾野見小が93.8%であった。市が実施するアンケートの中では、回答率は高く、保護者の関心が非常に高いと考えているところである。

#### **委員C**

地域に対してはどのように説明することになるのか。統合となれば、廃校となる場所が出てくるが、跡地利用などはどのようにしていく方針なのか。ここで検討するのか、市が検討するのか。

#### **事務局**

学校の在り方については、保護者の意見が第一と考えており、アンケートを行った上で、皆様の意見を尊重して考えていきたい。それに伴う跡地利用の問題などについては、教育委員会のみでなく、学校の跡地利用の所管課と一緒に、伴走型の支援を検討していきたい。

地域の皆様へは、アンケートを集約したものをお示ししたい。

#### **委員D**

統合などの判断材料として、新しく建物を建てるとか、既存の建物を利用するとかという方針を示した方がよいのではないか。

#### **事務局**

アンケートにより、建物をどうするか意見も出てくると考えている。それらの意見を踏まえて方向性を示していきたい。

#### **委員E**

統合されれば、小学校一つ、中学校一つで9年間一緒となると考えられるが、既に小中一貫校になっている伊崎田学園などの良い面や悪い面などを示してもらえれば、判断材料となるのではないか。

#### **事務局**

アンケートの集約が終わった時点で、伊崎田学園の状況などを示して、検討を進めていけたらと考えている。

既に、伊崎田学園が6～7年経過し、これまでの成果や課題が見えてきており、それをアンケート集計に合わせて、お示ししていきたい。

#### **委員F**

前回、中学校でアンケートを行っていないのはなぜか。

また、アンケートの結果では、いずれにしても危機感を持っていると感じられ

る。今後1中3小をまとめていく方針が将来的にはベターと考えるが、保育園や学校が新しい形となって、学力向上や人口増加につながった自治体の話も聞いたことがある。学校が新しく形態を変えてできることによって、魅力ある松山地区につながるなどといった、10年後、20年後の将来を見据えて、それくらいの思いを持って、検討していつてもらえたらと考える。

## 事務局

小学校のみにアンケートを行ったのは、令和2年度と3年度に急激な出生数の減少がみられたため、令和4年度にすぐに影響が出てくる小学校に情報提供し、アンケートを行った。中学校については、影響が出るのは12年後になるため、危機感を共有できないと考えたことから、小学校のみのアンケートとなったところである。

委員Fの意見は、とてもありがたい。この検討については、地域からの要望に応える形で進んでおり、全国をみても珍しいケースとなっている。文部科学省も注目していて、フォーラムで事例報告をさせてもらった。

## 委員G

小中一貫校に統合する意義を考えると、例えば、「教育のまち松山」といったものを全面的に押ししていけば、アンケートの内容も変わってくると思う。アンケートの結果も皆さんに分かるように示してほしい。「教育のまち松山」をアピールしていけば、移住やまちづくりにとって大きな流れにつながるのではないかと思う。

## 委員長

保護者アンケートの実施については、「教育のまち松山」を全面的にアピールし、アンケートを行うことでよろしいか。

<委員了承>

## 事務局

16ページにアンケート依頼文の案を付けているが、その中で「教育のまち松山」を目指すという文面を整理して加えるようにしたい。また、アンケートの結果を分かりやすく示してほしいという意見があったが、回答からその理由までを整理してお示しするようにしたい。

## 委員H

大学のゼミで、学校の統合などについての研究しているような事例はないか。

## 委員I

具体的にそのような研究をしている学生はいない。学生がこのような統合などの会議に参加したということは聞いたことがあるが、実際に自治体と一緒に話を進めたことのある学生はいない。

#### 委員 H

この会に学生が参加するということはできないか。

#### 委員 I

これから教育者を目指す学生たちが参加することは良いことだと思う。教育委員会との調整が必要だが、Zoomなどで参加するといった形も良いのではないかと考える。

#### 委員 J

地域のことで、Iターン者が減っていることを懸念している。市内に居住する者に就農の機会を与えてもいいと思っているし、このことも何らかお願いをしていきたい。

#### 委員 I

本日の検討委員会では、子供たちのことを考えての前向きで、建設的な考え方を持った意見が多いと感じた。子供たちの未来のために、あるいは魅力ある学校づくりのために、知恵を出し合うことは素晴らしいことである。文部科学省では、学校の適正規模は12学級～18学級とされ、6学級～11学級が小規模校とされており、小規模校にもメリット、デメリットはあると言われている。今後、少子化が進んでいくことは明白で、この地域だけではない課題となっていると考えられる。その中で、この地域は、自分たちで話し合う機会をつくり、保護者や地域の方が一緒になって考えている。新しい学校の在り方には、理解度、満足度、当事者意識を持つことが大事であると考ええる。また、この会に入っていない保護者や地域の皆様にしっかりと示して行ってほしい。今回の検討委員会で、鹿児島県で、あるいは九州地区でこれまでにない学校、日本で先駆けになる学校が作れるのではないかと期待を持てた。今後も皆様の活発で前向きな意見を出し合うことを期待する。

#### 委員長

今後、アンケートを実施し、その結果を踏まえて検討を重ねていくということ  
でよろしく願います。以上で議事を終了する。

<事務局から次回開催の案内>

#### 8 その他（午後 8 時11分）

#### 9 閉会（午後 8 時12分）